

銀行の役割と地域性の重視

—メガバンク・グループの一員としての地域銀行—

中京大学 水谷 研治

《報告要旨》

1 メガバンクの成立と地域からの遊離

かつての都市銀行が相次いで合併し、巨大な銀行グループが成立した。合併の効果を発揮するためには内部の融合が早急に必要である。そのためには従来それぞれの銀行が持っていた特殊性を捨てなければならない。現実には地域の特性が失われつつある。

銀行業の対象は基本的にそれぞれの地域に根づく企業や個人である。地域ごとに特殊性があり、それに合わせた対応が必要である。画一的な基準を取引に当てはめることは現実的ではない。

2 企業の帰趨を決める資金の供給

企業経営が平穏に推移するとはかぎらない。業績が良い時でも企業買収の危険が迫ってくることもある。平時から準備をしているはずであるが、それを超える事態が起きた場合、対応するには大量の資金が必要になる。銀行が役割を発揮しなければならない。

景気が極端に悪化した場合の企業経営は悲惨である。倒産の危機に遭遇する。倒産すると、それまでに培ってきた資産が消えてしまう。長年にわたって育成してきた人材が四散し、それに伴って貴重な技術がなくなる。危機を乗り越え、経営を立て直して長期的な発展を目指す必要がある。業績が極端に悪化した段階で、生き残りのための救済資金を求めなければならない。

そのような資金を供給することは銀行にとっても難しい。間違えて融資に応じると、自らの損失になるだけでなく、経済社会により大きな禍根を残すことになる。必要性和安全性の見極めが必要である。

3 地域性重視の実現方法

銀行としては企業の現状を把握するだけでなく、将来を予想しなければならない。その場合に重要なのが企業と地域との関連である。企業経営が地域の情勢によって影響を受けるとともに、企業の状況変化が地域全体へ及ぼす影響を考慮して対処しなければならないからである。

その意味で経済圏に見合った地域銀行が求められている。それをメガグループの中で独立した銀行として設立することが現実的である。そのようにして銀行はメガグループの機能を多面的に利用しながら経済社会の安定的な発展に貢献することが好ましいと考えられる。